



その時、広島には黒い雨が降った

—1945 忘れまじ広島・長崎—

本日8月6日は79年前の1945年、8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下された日です。当時、広島には黒い雨が降りました。その日のことを絶対に忘れてはならないという意義を込めて毎年、広島平和式典が行われています。みんなにも知っておいてほしい、考えてほしいという思いで毎年、この日のことをみんなに紹介しています。松井広島市長の「平和宣言」、争いを生み出す疑心暗鬼を消し去るために、今こそ市民社会が起こすべき行動は、他者を思いやる気持ちを持って交流し対話することで「信頼の輪」を育み、日常生活の中で実感できる「安心の輪」を、国境を越えて広めていくことです。そこで重要になるのは、音楽や美術、スポーツなどを通じた交流によって**他者の経験や価値観を共有し、共感し合うこと**です。こうした活動を通じて「平和文化」を共有できる世界を創っていきましょう。特に次代を担う若い世代の皆さんには、広島を訪れ、この地で感じたことを心に留め、幅広い年代の人たちと「友好の輪」を創り、**今自分たちにできることは何かを考え、共に行動し、「希望の輪」を広げていただきたい**。という市長の言葉が心に残りました。また、何よりも小学生2名による「平和への誓い」に心打たれました。以下に全文を紹介し、よく読んでください。

「平和への誓い」

目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。「ドーン!」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかかった朱色の雲。

人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。

原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。

言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。

今もなお、世界では戦争が続いています。79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。

本当にこのままでよいのでしょうか。願うだけでは、平和はおとずれません。

色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。**一人一人が相手の話をよく聞くこと。**

「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合しましょう。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年(2024年)8月6日

こども代表 広島市立祇園小学校
広島市立八幡東小学校

6年 加藤 晶
6年 石丸 優斗



私たちにできる平和への一歩を歩いていきましょう。

暑い日が続きます。熱中症に気をつけて、最後まで有意義な夏休みを過ごしてください。